

地方創生推進交付金活用事業 実施事業内容一覧

【交付金事業名称:都市近郊のほっとするホットな観光地・こなん】

(事業費ベース、単位:千円)

分野	事業名	執行額または予算額			内容	方向性の検討	担当課
		H29執行額	H30執行額	R1見込額			
観光	湖南省ブランド化事業	328	293	308	H29	広報アドバイザーや動画作成ソフトの導入により、市のホームページや広報紙を通じたシティプロモーションを強化することで、本市の魅力を広く発信しました。	今後は市民メンバーと一緒に「魅力発信プロジェクト」を展開しながら、市の魅力を明確にし、効果的な魅力発信を行っていきます。
					H30	湖南省の魅力や伝え方を考える「魅力発信プロジェクト」(市職員対象)を立ち上げ、シティプロモーションの講演会とグループワークを行い、湖南省の認知度の向上やブランドの確立に向けた取組みを行いました。	新しくスタートしたVR、アプリ、リニューアルするHP等の活用により市の魅力を明確にし、効果的な魅力発信を行っていきます。
					R1	市公式Vtuberを核とした新しい形の情報発信を進めることにより、湖南省の認知度の向上やブランドの確立に向けた取組を行いました。さらに、市のホームページや広報紙等と連動したプロモーションを強化することで、本市の魅力を広く発信しています。	VR・アプリ・リニューアルしたホームページ等のさらなる活用により、市の魅力をより効果的に発信していきます。
	観光・地域情報アプリ開発業務委託	7,425	648	654	H29	市内の観光情報や地域情報を提供するアプリを開発することにより、観光客の誘客や消費誘導を図るとともに、市民に向けた市の魅力の再発見や愛着の醸成に寄与しました。	利用者の満足につながるような情報発信をめざし、さらなる誘客に繋げる情報発信や市の魅力を伝える地域情報の提供など、情報量を増やしていきます。
					H30	観光情報内のコンテンツと生活に密着したごみやコミュニティバス情報等の地域情報のコンテンツの利便性を周知しました。また、新たなコンテンツを追加し、観光客の誘客や消費誘導を図るとともに、市民に向けた市の魅力の再発見や愛着の醸成に寄与しました。	子育てに関する事業や観光イベントなどをイベントカレンダーに掲載し、その日の事業などの情報を手軽に入手できるように努め、さらなる誘客に繋げます。
					R1	観光客の誘客や消費誘導の他、身近な情報を手軽に入手できるなど利便性の向上を図るとともに、市の魅力の発見や愛着の醸成に寄与しました。また、子育てに関する事業や行事などをイベントカレンダーに掲載し、その日の事業などの情報を手軽に入手できるようにしました。	イベントカレンダーや掲載情報を充実させることにより、アプリ登録者数の増加を図り、さらなる誘客に繋げます。
	ふるさとづくり観光振興事業補助金	4,000	2,000	2,000	H29	猿飛佐助実行委員会が実施主体となりARアプリを開発し、三雲城址・旧東海道等の昔の風景を再現することにより、観光客の回遊性を高め、猿飛佐助関連の特産販売とも連携して市内の飲食や特産品の消費を増加させます。また、猿飛佐助・三雲城址のPR活動および関連特産品の販売促進を実施することにより、誘客を図るとともに観光客の消費を増加させます。(平成30年3月26日アプリリリース)	3月末に完成したアプリについて、市外観光客へ周知を図るため駅でのポスター掲示やアプリPRのチラシを制作した他、スタンプラリー特典としてゆららの無料入浴券を用意し、観光客の回遊性をさらに高めます。また、AR機能をさらに拡張するほか、アプリ保守経費を市内飲食店などの協賛により賄う予定であるため、観光協会会員や商工会会員などへの働きかけを行います。
					H30	猿飛佐助実行委員会が実施主体となりARアプリの機能を拡張し、市内の観光案内や飲食店の登録が可能となり、観光客の回遊性を高めることに寄与しました。さらに、地域プロデューサーとの連携のもと、猿飛佐助によるまちおこしのコンセプトを見つめなおし、地域とともに新たなキャラクターの制作を行っていく方向性を決定しました。	完成したキャラクターをアプリ拡張に反映させることにより、ダウンロード数の増加を図るとともに、アプリの維持保守経費を捻出するために市内飲食店等に協賛を呼びかけます。また、自己収益を確保するため、キャラクターを使った商品開発や販売を行います。
					R1	2019年度は地域プロデューサー、出版社マッグガーデンとの連携により、猿飛佐助の新キャラクター制作と資金獲得とPRのためクラウドファンディングを実施し、目標額30万円を達成しました。また、制作段階から地元の小中学生の投票を取り入れることや、制作後は夏祭りなど市民が集うイベントで新キャラクターのうわやクリアファイルなどのノベルティグッズを配布し認知度を高める取組を行いました。(ノベルティグッズ製作費はクラウドファンディングの資金で調達)	ARアプリに名所を案内する機能の充実と協賛企業の呼びかけを行います。また、サスケのキャラクターの認知度を高めるPRを積極的に行うとともに、漫画本の出版に向けた第1ステップとして、地域のみならず全国のファンを増やすため、WEB版のサスケ漫画をネット公開していく予定です。
	地域文化芸術活用事業委託	1,000	1,000	1,000	H29	菩提寺まちづくりセンター、菩提寺コミュニティセンターおよび市内飲食店で市内の福祉作業所等で創作されるアールブリュット作品を展示することにより、誘客を図るとともに、観光客の回遊性を高め市内飲食店での消費増加を図ります。今年度は市内2か所から3か所に展示場所を増やすとともに同時開催を行うことで、広く開催をPRすることができました。	市内飲食店での開催が好評であったことから、開催場所や周知方法などについて、さらに見直しを図り誘客の増加につなげていきます。
					H30	甲西文化ホールおよび市内飲食店で市内の福祉作業所等で創作されるアールブリュット作品を展示することにより、誘客を図るとともに、観光客の回遊性を高め市内飲食店での消費増加を図ります。今年度は市内2か所での展示場所として同時開催を行うことで、広く開催をPRすることができました。	市内飲食店での開催も好評でありましたが、開催時期や他事業連携など、さらに見直しを図り誘客の増加につなげていきます。
					R1	図書館および市内飲食店で市内の福祉作業所等で創作されるアールブリュット作品を展示することにより、誘客を図るとともに、観光客の回遊性を高め市内飲食店での消費増加を図ります。今年度も市内2か所での展示場所として同時開催を行うことで、広く開催をPRし、アールブリュットに対する認知度を増やすことができました。	地方創生交付金事業としては終了しますが、障がい者の生きがいづくりなどの福祉施策として継続していきます。また、市内飲食店での開催は好評であったため、飲食店が独自で継続していくこととなっています。

地方創生推進交付金活用事業 実施事業内容一覧

【交付金事業名称：都市近郊のほっとするホットな観光地・こなん】

(事業費ベース、単位：千円)

分野	事業名	執行額または予算額			内容			方向性の検討	担当課
		H29執行額	H30執行額	R1見込額	全体概要	年度	年度別実施内容		
観光	地域観光資源活用事業補助金	4,000	1,800	1,800	湖南三山めぐりの宣伝広告、十二坊ハイキングやトレイルラン・トレイルウォーキングなど歴史遺産と自然を活用したイベントの実施	H29	地域観光資源の活用を目的とし、ハイキングコースの整備を行うとともに、春の花・夏の深緑・秋の紅葉など豊かな自然と国宝湖南三山や各種文化財を持つ寺院、また近江下田焼や近江正藍染などの伝統工芸など多様な観光資源を活かし、「湖南花の寺と摩崖仏めぐり」、「国宝湖南三山紅葉めぐり」「トレイルウォーキング」等の事業を実施しました。 湖南市の魅力を内外にアピールすることによって、認知度の向上ができ、湖南市ならではのグリーンツーリズムの展開による都市近郊からの誘客を図ることができました。	紅葉だけではなく、青紅葉の湖南三山もPRしていきます。また地域の観光資源である岩根山などの地形を活かしたトレイルランなどの開催も行っていきます。	商工観光労政課
						H30	美しい新緑の時期に湖南市への誘客を図るため「国宝湖南三山青もみじ」のチラシを製作。JAF Mateや新聞等の媒体に「国宝湖南三山紅葉めぐり」「国宝湖南三山青もみじ」の広告掲載、高速道路SAでのチラシ・ポスターの配架を行い、都市近郊からの誘客を行いました。湖南三山紅葉めぐり期間中は延べ37,952人の観光客が来訪されました。	湖南三山や摩崖仏以外にも、市内には自然や歴史遺産等の観光資源が多数存在している。湖南三山のみにとらわれず、様々な資源を活用したツーリズム事業等を実施し、年間を通じた誘客策を図ることが必要です。	
						R1	春から初夏の集客事業として「湖南花の寺と摩崖仏めぐり」を開催し、ハギの花と美しい庭園が有名な西應寺、サツキの花が多数の石仏を囲む正福寺を中心に多くの観光客が訪れています。また、昨年度から周知を開始した「国宝湖南三山青もみじ」についても継続して周知を行いました。4/21に開催したトレイルラン&ウォークには全国から約800名の申込があり、岩根山とその周辺の自然と歴史を感じながらスポーツを楽しんでもらうことができました。紅葉の時期には「国宝湖南三山紅葉めぐり」を開催し、入山者数は前年比103.3%の39,212人で過去最高値を記録しました。湖南三山紅葉めぐりは今年度で15周年となり、記念の御朱印紙を発行し、とても好評でした。そのほか、旧東海道やうつくし松をコースに含めたJRハイキングを実施しました。	市内観光資源をさらに磨き上げ、それ単体だけの観光で終わるのではなく、様々な民間事業所と市の観光施設などと連携したツーリズムの確立と、スポーツや湖南工業団地の工場を素材とした湖南市独自の体験・学習型の観光施策を展開します。	
	観光情報発信事業補助金	2,000	2,000	1,500	動画を活用した観光パンフレットの追加・修正、県と連携した観光キャンペーン	H29	県・びわこビジターズビューロー・JR西日本と連携し、関東・関西・九州における観光キャンペーンを、また、ここ滋賀と連携し、東京での観光キャンペーンをそれぞれ実施しました。市内の美しい自然や景観を視覚に訴えるため、パンフレットにAR機能を採用し、さらにインターネット上でもダウンロードできるようにしています。	平成30年7月から始まる滋賀県大型観光キャンペーンへの参画をはじめとして、他団体との連携を含め広く湖南市の観光PRを行います。SNSやインターネット、またメディアを通じた情報発信を強化していきます。	
						H30	青もみじや紅葉めぐりなど、国宝湖南三山の情報発信を中心に、首都圏での商談会や情報交換会に積極的に出展しました。また、滋賀県大型観光キャンペーンのオープニングイベントにもブースを出展し、市内観光名所や特産品等の情報発信を実施し、市外・県外での情報発信を積極的に行いました。	紙媒体でのPRが中心となっているが、インターネットやSNSを活用した情報発信を強化します。また、11月から始まる、戦国時代の歴史にクローズアップした観光キャンペーン「戦国ワンダーランド滋賀・びわ湖」への参画をはじめとし、他団体との連携を強化し、広域的な情報発信も視野に入れていきます。	
						R1	4月に湖南市観光PRと動物愛護啓発を目的に「第9回こにゃん市長選挙」実施しました。当選されたジャック市長が市内で開催されるイベントに出席し、PRを行っています。また、竜王町や近江八幡市、大阪市、鳥取県北栄町などで開催されたイベントに出展し、市外での観光PRを積極的に行いました。旅行商談会にも参加し、約20社の旅行エージェンツへ湖南市観光資源の情報発信・誘客も行いました。 また、インスタグラム等のSNSやHPを活用し、情報発信を継続的に実施しています。そのほか、市内公共施設および市内JR各駅などと連携し紙媒体での広報を実施しました。	市観光振興の方向性やターゲットを明確にし、SNS等を活用した効果的な情報発信やイベントでの観光PRを行います。また、信楽を舞台にしたNHK朝ドラ「スカーレット」や、滋賀県が舞台となるNHK大河ドラマ「麒麟がくる」が放映されたことを機に、市内ロケ地や戦国ブームを活かした観光情報発信を積極的に展開します。	
(合計)		18,753	7,741	7,262					

地方創生推進交付金活用事業 実施事業内容一覧

【交付金事業名称:「みらい公園湖南」を核とした農福連携・ブランド化による地域好循環実現計画】

(事業費ベース、単位:千円)

分野	事業名	執行額または予算額			内容			方向性の検討	担当課	
		H29執行額	H30執行額	R1見込額	全体概要	年度	年度別実施内容			
地域自然エネルギー活用事業		2,635	999	990	イモ発電のためのサツマイモ栽培拡大、イモ発電実用化に向けた検討等	H29	イモ発電は、近畿大学鈴木教授が提唱する新たなエネルギーの創出となる取組みであり、市地域活性化戦略プランのバイオマス燃料製造プロジェクトに位置づけています。イモ空中栽培への介護事業所等の参画により、棚による空中栽培は、車いすのまま作業が可能であり、だれでも参加できるものです。このことから、新たに農福連携事業としての展開につながる取組となります。	国の交付金を活用し、農福連携を軸として、6次産業化や障がい者・高齢者の就農支援を含め、芋発電の実用化に向けた検討を行います。	地域創生推進課	
						H30	イモ発電は、近畿大学鈴木教授が提唱する新たなエネルギーの創出となる取組みであり、湖南市地域自然エネルギー地域活性化戦略プランのバイオマス燃料製造プロジェクトに位置づけています。 また、イモを活用した6次産業化の取組の可能性もあり、農福連携事業としての展開にもつながります。			芋発電や6次産業化にはより多くのサツマイモが必要となるため、さらなる活動場所や協力者の拡大へ、今回、サツマイモの植え付け会や収穫祭等での実績を踏まえ、効果的な普及・拡大方策の検討を行います。 芋発電については、規格外品や蔓、葉っぱ等を発酵させて作るメタンガスを利用して、発電を行う仕組みです。 今回、小型発電機の発電実施可能場所の検討を行います。 また、サツマイモを一定期間保存が必要であるため、燃料保存用ハウス等の設置を行います。
						R1	イモエネルギー・熱利用の取組を進めようと、市内福祉事業者等で組織されたこなんイモ・夢づくり協議会がサツマイモの空中栽培に取り組みながら、芋や蔓、葉っぱ等を活用した芋のエネルギー利用への挑戦を行っています。併せて、6次産業化や障がい者・高齢者の就農支援を含めた地域自然エネルギーの活用に向けた検討を行います。 また、自然エネルギーへの理解を深めようと市民連続講座を8回実施し、453名の方が参加され、イモ発電熱利用事業にかかるイモ空中栽培は、市内50箇所、1,434名の参加となりました。			サツマイモ空中栽培が、市内保育園や小学校、福祉施設等で行われており、毎年栽培協力施設は徐々に増加しています。 今回、サツマイモの植え付け会や収穫祭等での実績を踏まえ、効果的な普及・拡大方策の検討を行います。 障がい者・高齢者が参画する地域自然エネルギー活用事業において、これまでサツマイモを活用したブランド化事業検討等を行ってきました。 これまでの検討結果を踏まえ、ブランド化事業の展開を図り、障がい者等の関わりを創出し、就農につなげていくこととします。
シルバー健康農業塾事業		242	56	65	高齢者を対象に野菜づくりの学習・実技を行う農業塾を実施	H29	高齢者が「農業」を通して健康づくりや生きがいづくりに資することを目的としています。また、収穫等の体験を障がい者や子どもたちと取組みながら世代間交流を図ります。	市内の耕作放棄地や貸農園を借り、100歳大学卒業生や在校生、広報からの一般参加者により農業塾を開催し、植え付けや栽培管理、収穫、販売を行います。	高齢福祉課	
						H30	平成29年度シルバー農業塾基礎編の受講生ら14人が中心となり、平成30年度は市内遊休農地を活用して野菜の栽培を行い、収穫した野菜を使った調理を体験しました。			本事業終了後も受講生が中心となり、自主的に市内の耕作放棄地や貸農園を借り、「こなん市100歳大学」卒業生や在校生、広報から参加者を募りながら農業塾を継続できるよう、産業立地企画室等と協議して支援します。
						R1	高齢者が「農業」を通して健康づくりや生きがいづくりに資することを目的としています。また、地域おこし協力隊と収穫や活用について協議を実施し、収穫を協働で実施しました。収穫した野菜は、「市民食堂」に提供し、メニューに取り入れてもらいました。			参加者の有志で自主的なグループとして、現在の農地を活用しながら活動を継続します。農業を通しての健康づくりや生きがいづくりは、今後100歳大学の中で一つの講座として取り入れていきます。
市民農業塾実践編実施事業		849	718	900	作付けから収穫・こびあへの出荷までの一連の販売農家としての業務を実践する市民農業塾実践編を実施	H29	岩根地先のこびあ周辺農地において、キャベツ、白菜、ブロッコリーなどの秋冬野菜を定植から収穫、販売まで参加者が体験したことにより、農業への関心を高め、新規就農者と成り得る人材の掘り起こしと農業生産技術を習得されました。市民産業交流促進施設こびあなどの直売所での販売により参加者と消費者がコミュニケーションなどを通じ農業のもつ魅力を理解されました。また、参加者の中には、自発的に農業者とのネットワークを構築する動きもみられました。	昨年度までは、農業の基礎を学んでいただくことを念頭に座学を中心とした市民農業塾を開催していたが、本年度より、初級者向けの基礎編と通年による体験型の実践編とに分割して実施いたしました。これにより、農業知識や技術の習得が参加者のレベルや意向に沿った塾の開催を行うことができ、次年度からはさらにみらい公園湖南チャレンジ農園実践事業へのステップアップを促していき、新規就農に繋げていきたいと考えています。		
						H30	岩根地先のみらい公園湖南内にあるほ場において、秋冬野菜であるキャベツ、白菜、ブロッコリー、カリフラワー、大根を播種・育苗から定植、追肥といった栽培管理、そして栽培したものを収穫し、販売するまでを参加者が体験することにより、農業への関心を高め、新規就農者となり得る人材の掘り起こしと生産技術を学ぶ機会となりました。販売については、市民産業交流促進施設こびあで参加者自ら消費者と対面販売することで農業の楽しさ、魅力を感じる機会となりました。また、参加者の中で生産グループを構築する動きも見られました。			今年度は野菜栽培について実践的な作業中心の内容で行いましたが、次年度については、野菜だけでなく果樹についての知識や技術の習得できる機会を設け、参加者に新規就農を促していく上でできるだけ多く情報を提供できる環境を構築していきたいと考えています。
						R1	みらい公園湖南内にあるほ場において、秋冬野菜であるキャベツ、白菜、ブロッコリーを栽培、収穫し、そして販売までを参加者が体験することにより、農業への関心を高め、新規就農者となり得る人材の掘り起こしと生産技術を学ぶ機会となりました。今年度においては、JA主催の収穫感謝祭と連携する形で参加者自らが収穫にいられた消費者の収穫支援と収穫した野菜の対面販売を行うことにより、農業の楽しさ、魅力を感じる機会となりました。また、参加者の中で昨年発足した生産グループに加入する動きも見られています。			栽培品種を増やし、農業の楽しさをより理解してもらえるような企画を実施していき、農業分野で先進的な取組や活気のある地域に研修に赴き、農業のよって生活が保てるという状況を知ってもらうことにより、出荷者として具体的なイメージを描けるよう支援していきます。

地方創生推進交付金活用事業 実施事業内容一覧

【交付金事業名称:「みらい公園湖南」を核とした農福連携・ブランド化による地域好循環実現計画】

(事業費ベース、単位:千円)

分野	事業名	執行額または予算額			内容		方向性の検討	担当課
		H29執行額	H30執行額	R1見込額	全体概要	年度別実施内容		
農福連携	みらい公園湖南チャレンジ農園実践事業	5,300	416	416	みらい公園湖南の敷地内に設置された農業用ビニールハウスをチャレンジする農業者に期限付きで貸し付けを行い自立営農を支援	H29	岩根地先のこびあ周辺農地((仮称)魅力発信拠点施設西隣)において、新規就農者向けの教育ファームとしてビニールハウスによるトマトやホウレンソウなどの野菜を通年栽培していただき新規就農に繋げていきます。なお、栽培方法については、滋賀県が推奨する底面給水育苗システムやプランター栽培ベットシステムなどを活用するべく施設整備を行いました。	次年度より、当該チャレンジ農園への参加者の公募を行い、地元農業者や滋賀県などの営農指導のもと本格的な農業経営を見据えた就農教育が受講できます。また、次年度開業予定の魅力発信拠点施設への来場者向けの農業体験や市民農業塾と連携した農業情報の発信をしていきます。
						H30	岩根地先のみらい公園湖南内にあるほ場の横に底面給水育苗システムと少量土壌培地耕システムを設置したハウスを活用し、参加者が主体的に定植から収穫、販売までを実践することによってハウス栽培に関する知識や技術を習得されました。しかし、9月の台風21号によりハウスが倒壊し9月以降事業は休止となりました。	ハウスの再建を平成30年度中に行い、被災により事業が行えなかった参加者に対するフォローとして再度事業の参加について優先的に呼び掛けを行いました。次年度では栽培を熟知している人を講師に招き参加者に対して知識と技術を指導してもらいながら、販売を実践していきます。
						R1	みらい公園湖南内のほ場で、付加価値の高い農業の実践のため、底面給水育苗システムと少量土壌培地耕システムを設置したハウスを活用し、県農産普及課OBである講師の指導の下、参加者が定植から収穫、販売までを実践することによってハウス栽培に関する知識や技術を習得されました。	チャレンジ農園参加者にハウス栽培による安定した所得が得られることを認識してもらったため、出荷について先進地視察や農業関係者との協議の場を定期的に行い、より実践的な指導体制が取れるよう進めていく必要があり、また、チャレンジ農園ブランドを市内外にPRを積極的に行い、継続した事業として進めていく基盤を作ることが重要となります。
	農福連携推進施設整備事業	1,000	1,500	776	障がい者等の働く場所を創出する事業を進めている事業者に対し、養鶏施設の既存施設の改修や新たな設備の導入を支援	H29	農業者の担い手不足の解消と障がい者の就労機会の拡大を図るには、農業分野と障がい者福祉分野が連携した取り組みを行う必要があります。その第1段階として、市内養鶏法人を活用し、養鶏場を障がい者にとって優しい就労環境に整えようと、生産性を高めるための施設整備を行いました。	安定した経営と障がい者就労の継続性を図るためには、老朽化した施設の最低限の更新が必須となりますので、3か年をかけて施設整備を行うこととし、並行して就労希望の障害者の確保を行って参ります。
						H30	農業の担い手拡大と障がい者や高齢者が活躍する場の確保の両立を目指すため、農業分野と福祉分野が連携した取り組みを行う必要があります。障がい者就労を目指す市内養鶏法人の施設整備支援を行ったことで、障がい者が働きやすい作業環境が一部整い、実習生の受入を実施することができました。	安定経営と障がい者就労の継続性を図るために、引き続き施設整備支援を行って参ります。また、支援と並行して障がい者雇用に向け関係機関と情報共有を図りながら確保に努めて参ります。
						R1	農業の担い手不足の解消と障がい者の就労機会の拡大を図るには、農業分野と福祉分野が連携した取り組みを行う必要があります。その第1段階として、市内養鶏法人を活用し、養鶏場を障がい者にとって働きやすい就労環境となるよう整えようと、生産性を高めるための施設整備を行いました。	3ヶ年をかけて老朽化した施設整備を行った結果、必要最低限の働きやすい就労環境が整ったと考えます。今後は、生産技術の向上や付加価値の高い生産品づくりの支援、並びに就労希望の障害者の確保の協力を行ってまいります。
	特産品等マーケティング支援事業	5,499	5,999	5,499	こびあの出荷者等を対象としたマーケティング手法等に関するセミナーや具体的商品等を対象とした個別指導を実施	H29	市内農業者や商業事業者などの地元生産野菜を活用した加工品等を生産している事業者を5社(5商品)選定し、新たな特産品づくりの一環として販売競争力のある商品のブラッシュアップ支援を行うとともにバイヤーとの商談会や首都圏における販売会を実施しました。これにより商品づくりやマーケティングの構造を事業者が学んだことにより販売先のチャンネルを見出すことができました。	今後も継続した特産品開発を進めるとともに生産農家と加工事業者とのマッチングの機会を提供し取引の活性化を図っていきます。また、将来的には湖南市特産品の催事出展やパンフレット作成、ふるさと納税返礼品など多くの場面で活用が可能なよう推進していきたいと考えております。一方、生産体制においては、生産農家の拡大と生産農産物の多品目化、加工事業者の生産能力の拡大などを図り、農福連携や商福連携などへも寄与していきたいと考えております。
						H30	H29年度と同様に、地元生産野菜を活用した加工品などを生産している事業者を5社(5商品)選定し、新たな特産品づくりの一環としてブラッシュアップ支援やバイヤーとの商談会、首都圏における販売会などを通じて、商品づくりやマーケティングの構造の理解を深め、新たな販売ルートを見出すことができました。	新たな特産品開発を進めるために事業に参加いただける事業者の掘り起こしを行いつつ、昨年同様生産農家と加工事業者とのマッチングの機会を提供し取引の活性化を図っていきます。また、湖南市特産品の催事出展やパンフレット作成、ふるさと納税返礼品など多くの場面で活用が可能なようより一層推進していきたいと考えております。一方、生産体制においては、生産農家の拡大と生産農産物の多品目化、加工事業者の生産能力の拡大などを図り、農福連携や商福連携などへも寄与していきたいと考えております。
						R1	H30年度と同様に、地元生産野菜を活用した加工品などを生産している事業者を3社(3商品)選定し、新たな特産品づくりの一環としてブラッシュアップ支援やバイヤーとの商談会、首都圏における販売会(予定)などを通じて、商品づくりやマーケティングの構造の理解を深め、新たな販売ルートを見出すことができました。また、歴史的価値があり、地域を代表する産品である弥平とうがらしの加工品が、本事業を通して中小企業庁長官賞を受賞する等、初めて全国的な評価を得たタイミングを逃さず、意欲ある生産者等と共に、弥平とうがらしのGI取得(知的財産登録)をめざして特産価値の保護、産地体制の整備に向けた保存会の立ち上げを支援しています。	加工品で全国的な評価を得た弥平とうがらしを含む伝統野菜等の市場創出に向けた特産品開発の支援や普及活動を行っていきます。また、伝統野菜の弥平とうがらしの価値や地域の特産としての保護等を図るため、意欲ある生産者等による団体設立等の活動を支援し、その成果の一つとしてGIの取得等も視野に支援していきたいと考えております。

地方創生推進交付金活用事業 実施事業内容一覧

【交付金事業名称:「みらい公園湖南」を核とした農福連携・ブランド化による地域好循環実現計画】

(事業費ベース、単位:千円)

分野	事業名	執行額または予算額			内容		方向性の検討	担当課	
		H29執行額	H30執行額	R1見込額	全体概要	年度			年度別実施内容
産学官連携事業		3,499	4,133	5,480	大学との連携による特産農産物の開発や6次産業化による加工品開発を実施	H29	県内立地の龍谷大学農学部と連携し、湖南省における新たな特産農産物の研究開発を行いました。多数の品目の中から、中国野菜のエンサイ(ホウレンソウと同様の栄養価のある葉物、春夏野菜。)と養蜂による国産ハチミツを選定し市内の農家へ普及拡大できるよう栽培および養蜂研究に取り組みました。	次年度においては、市内における試験栽培を実施していきます。エンサイについては、比較的簡単な栽培方法となるため農家をはじめ保育園や小中学校、高校並び福祉事業所などにも呼びかけを行っていく予定です。国産はちみつについては、新たに養蜂業に着手意向のある市内の農家に担ってもらう予定です。また、各産物についての周知を図っていきます。	
						H30	県内立地の龍谷大学農学部と連携し、湖南省における新たな特産品として中国野菜のエンサイ(ホウレンソウと同様の栄養価がある葉物、春夏野菜。)と養蜂による国産蜂蜜販売が障がいのある人の働く場の創出手段となるか検討を行いました。エンサイについては、市民向けの説明会やエンサイを知ってもらう機会作りとして試食会を開催し普及活動に取り組みました。養蜂については、市内畜産業者敷地内を使用し、試験的に蜂蜜収穫から採蜜までの工程を障がいのある人と共に実施し課題抽出に取組みました。また、周知活動として、市民産業交流促進施設こびあで採蜜体験イベントを開催し、広く市民に知っていただく機会作りに取り組みました。	エンサイについては、市内小規模農家を中心に生産者に対して栽培方法についての説明会を開催し、また消費者に対してもエンサイの良さを知ってもらう機会を創出していきます。養蜂については、障がいのある人の可能な作業を検証し、継続可能な事業となるように進めていきます。更に市民産業交流促進施設こびあ、魅力発信拠点施設HATと連携した取組を行っていきたくと考えています。	
						R1	県内立地の龍谷大学農学部と連携し、湖南省における新たな特産品として中国野菜のエンサイ(ホウレンソウと同様の栄養価がある葉物、春夏野菜。)と養蜂による国産蜂蜜販売が障がいのある人の働く場の創出方法について研究を行いました。エンサイは、市内農業生産者向けの事業説明会を実施し、生産普及に向けた呼びかけを行いました。養蜂は、雇用創出に向け事業化を進めるための商品開発並びに試験販売を実施しました。	エンサイについては、引き続き市内小規模農家を中心に生産者に対して栽培方法についての説明会を開催し、生産普及拡大に取組んでいきます。養蜂については、実際に障がい者が主体的に養蜂事業を試験的に開始した上で、実施していく中で課題を抽出し持続可能な事業計画の取りまとめと運営体制の構築について調整を行っていきます。さらにみらい公園湖南と連携した取組を進めていきたくと考えています。	
障がい者等就農支援事業委託		1,999	1,999	1,991	農業と障がい者就労のマッチングを実施	H29	障がい者や引きこもり等の就農促進による農業の担い手不足解消および障がい者等の社会進出の促進のため、両者のマッチング業務から個別支援、指導、サポートを行うための農業支援者育成を目的とした事業を行いました。先進的な取り組みを行っている事業所の視察や、講師を招いての勉強会や意見交換会を行いました。	試験的な就農を行い、農業者・障がい者・支援者それぞれの立場から見えてくる問題点を洗い出すなど、次のステップに向けた作業を行っていきます。また、周囲との連携強化により、障がい者等が働きやすいしくみづくりや、商品の付加価値の向上を図るなど、就労と運営の安定化につながる方法を検討します。	
						H30	障がい者や引きこもり等の就農促進による農業の担い手不足解消および障がい者等の社会進出の促進のため、作業の手順を可視化した「農業ナビゲーションマップ」を作成しました。また、種まきから収穫までの一連の作業を試験的にを行い、ナビゲーションマップの内容についての検証や、課題の洗い出しを行いました。	試験的な就農の結果から、農業者・障がい者・支援者それぞれの立場から見えてくる問題点を洗い出し、情報の共有についての方法やタイムラグの少ない連絡方法の確立など、次のステップに向けた作業を行っていきます。また、福祉事業所や他の支援者、また農業者等との連携強化により、障がい者等が働きやすいしくみづくりについての方法を検討します。	
						R1	障がい者や引きこもり等の社会復帰・社会進出の足掛かりとして農作業を活用することを目指し、「農業ナビゲーションマップ」や作業手順書の活用による実習的な就農を行いました。農業者の方から年間の農作業スケジュールを出していただき、支援者や支援機関側で作業と障がい者等のマッチングを試験的に行っていただきました。	実習的な就農を行い、支援に関する課題や問題点を、「農業ナビゲーションマップ」や作業手順書に反映させます。農業者から支援機関へ、また支援機関から農業者へのスムーズな情報伝達や情報共有の方法を検討し、連携強化を進めていきます。	
ブランド化事業		2,000	2,000	2,000	地域の食を活用したイベント等の実施、地元野菜等を使用した新たな食のメニューの開発	H29	野洲川の鮎の認知度アップのための「鮎フェア」の開催や、伝統野菜である弥平とうがらしを使ったメニュー開発を行い、その普及のためのスタンプラリーを実施しました。市内の観光振興のためには観光資源を活かした特産品開発が不可欠であるという市内業者への意識の醸成を行うことができました。	平成29年度に開催した「鮎フェア」や「弥平旨辛スタンプラリー」を引き続き行い、それぞれの特産品の定着をさせるとともに、さらなる特産品開発に向けた取り組みを行います。	商工観光労政課
						H30	湖南省特産品のブランド化として、野洲川の鮎の認知度向上のための「野洲川鮎フェア」開催や、JRハイキング時に「鮎の甘露煮弁当」を提供しました。伝統野菜である弥平とうがらしについては、市内23店舗の協力を得て、「弥平旨辛バスポート～刺激が欲しい大人のスタンプラリー～」を実施しました。また、旧東海道酒蔵めぐり時、弥平とうがらしを使用したメニューを揃えた「酒蔵マルシェ」を実施しました。	鮎フェア、弥平とうがらしスタンプラリーは今後も継続して行い、定着を図っていきます。鮎フェアは夏、スタンプラリーは秋から冬にかけて実施していますが、年間を通してブランド化を図る取組を検討します。	
						R1	湖南省特産品のブランド化として、今年度3回目となる野洲川の鮎の認知度向上のための「野洲川鮎フェア」を7月に開催し、市内外から約100名の参加がありました。開催前から多くの問い合わせがあり、体験型イベントへの関心の高さを感ずるところであり、認知度が高くなってきています。また、湖南省の伝統野菜である弥平とうがらしをPRするため、市内20店舗の飲食店・小売店の協力を得て、11月から2月末までの期間、「弥平旨辛バスポート～刺激が欲しい大人のスタンプラリー～」を実施しています。	鮎フェア、弥平とうがらしスタンプラリーは今後も継続して行い、認知度向上と定着を図っていくことやその他の観光資源を活用した取組が行えるよう検討します。また、民間事業者との連携のもと、湖南省独自の特産品やお土産物の開発を進めていきます。	
(合計)		23,023	17,820	18,117					

地方創生推進交付金活用事業 実施事業内容一覧

【交付金事業名称:地域の好循環を支える市民主体のまちづくり】

(事業費ベース、単位:千円)

分野	事業名	執行額または予算額			内容	方向性の検討	担当課			
		H29執行額	H30執行額	R1予算額						
まちづくり	地域活性化先進モデル交付金	5,529	5,397	5,000	まちづくり協議会が地域課題の解決等のために取り組む事業をメニュー化した先進モデル事業交付金による支援	H29	次世代によるまちづくりに関する事業提案や各まちづくり協議会の事業選択による活動を支援し、若者や地域住民によるまちづくりへの参画を促進する。それにより、地域の課題を自主的に解決し、持続可能な地域づくりを推進していきます。	各まちづくり協議会の事業選択による交付金を交付し、地域による自主的な事業の促進を図り、持続可能な新しい公共の推進を図ります。	地域創生推進課	
					H30	次世代によるまちづくりに関する事業提案や各まちづくり協議会の事業選択による活動を支援し、若者や地域住民によるまちづくりへの参画を促進する。それにより、地域の課題を自主的に解決し、持続可能な地域づくりを推進していきます。	本交付金を活用した自己収入の確保に向けた取り組みを継続的に支援するとともに積極的な情報提供により有効な事業を横展開していきます。			
					R1	次世代によるまちづくりに関する事業提案や各まちづくり協議会の事業選択による活動を支援し、若者や地域住民によるまちづくりへの参画を促進します。地域資源を活かしたふるさとづくりや農産物を使った特産品開発など、世代間交流や収益事業への着手など新たな取り組みを一定進めることができています。地域の課題を自主的に解決し、持続可能な地域づくりを推進していきます。(具体的事業:まちづくり協議会が主催する地域イベントの開催、ちよこっとカフェ、デマンドタクシー、観光パンフレット制作、摩崖仏クッキーの開発など)	本交付金を活用した自己収入の確保に向けた取り組みを継続的に支援するとともに積極的な情報提供により有効な事業を横展開していきます。持続可能な地域づくりを進めていく上では収益面においては十分ではないことから、コミュニティビジネスやソーシャルビジネスに特化した事業には今後も支援を継続していく予定です。			
	まちづくり人材育成事業	78	196	150	まちづくり協議会などを対象とした人材育成の研修会の開催等	H29	地域まちづくり協議会条例に基づき、「自分たちのまちは、自分たちでつくる」という基本理念のもと、地域課題解決のための「新しい公共」のかたちについて、他の地域事例に学ぶ機会として、各地域まちづくり協議会の役員などを対象とした「地域まちづくりフォーラム」を開催しました。	地域まちづくり協議会と区(自治会)との連携の在り方など、地域組織の課題解決に向けて、今後も継続的に実施することで地域支援を推進していきます。		
					H30	地域まちづくり協議会条例に基づき、「自分たちのまちは、自分たちでつくる」という基本理念のもと、地域課題解決のため、地域運営組織が抱える課題を共通認識し、今後のあり方を検討することを目的として各地域まちづくり協議会の役員や区役員などを対象とした「地域まちづくりフォーラム」を開催しました。	地域まちづくり協議会と区(自治会)との連携の在り方など、地域組織の課題解決に向けて、今後も継続的に実施することで地域支援を推進していきます。			
					R1	地域組織のあり方について現状認識と検討に向けた会議等を行い、引き続き地域と連携して見直しを進めていく必要があります。まちづくりは、「ひとづくりから」という視点をもったフォーラムを開催し、参加者の気づき、意識改革につなげていきます。それを「自分たちのまちは、自分たちでつくる」という理念につなげ、次世代にとっても「暮らし続けたいまち」となるようまちづくりの活動を進めていく必要があります。	地域組織のあり方について現状認識と検討に向けた会議等を行い、引き続き地域と連携して見直しを進めていく必要があります。まちづくりは、「ひとづくりから」という視点をもったフォーラムを開催し、参加者の気づき、意識改革につなげていきます。それを「自分たちのまちは、自分たちでつくる」という理念につなげ、次世代にとっても「暮らし続けたいまち」となるようまちづくりの活動を進めていく必要があります。			
	次世代参画まちづくり提案事業	3,498	748	1,000	市内外在住の若者による政策アカデミーの実施	H29	平成28年8月に、次世代まちづくり組織として「湖南市役所JK課プロジェクト」を立ち上げ、若者視点のまちづくりを企画し取り組みました。その活動や湖南市の魅力をSNS等を発信することで、多くの市民、特に若者が湖南市に関心を持つきっかけとなったと考えています。今後も、若者及び女性が進んで、まちづくりへの参画を図り、定住促進につながるよう事業を実施していきます。	より多くの若者がまちづくりに興味を持ち参加してもらえるよう、これまで以上に積極的な情報発信を行います。今後も、「湖南市役所JK課プロジェクト」を継続して行うとともに、市民や企業とのコラボも視野に入れながら、若者らしいまちづくりを企画し取り組んでいきます。		
					H30	同志社大学政策学部と連携し2019湖南市政形成パートナー発掘事業として「こなん政策アカデミー」を開催しました。市民、大学生、社会人、市職員などの参加による7チームから政策提案がなされました。提案された政策のうち、「中学生アイデアキャンプ」「元気な高齢者が活躍できるまち」「ニュースポーツのまち」を新年度に予算化する事業としてブラッシュアップされ、地方創生推進交付金事業の県連携による新規事業として、健康寿命延伸事業が採択されました。	学生など若い世代の参加により、大人が考える制約を超えた提案が期待できるとともに市に愛着を感じてもらえることができると考えられるため、市内の小・中学生および高校生が参加できるスキームを確立していきます。その中でも、2019年度は中学生アイデアキャンプを実施する予定であり、市内外から注目される政策の提案が期待できます。			
					R1	同志社大学政策学部と連携し2019湖南市政形成パートナー発掘事業として「こなん政策アカデミー」を開催し、地元の甲西中や甲西北中学校、甲西高校の学生、市外からは同志社大学をはじめ東京からは立教大学の学生、地域おこし協力隊(NCLこなん)など若者中心のメンバーで政策提案が行われました。同時に昨年度の提案で事業化された「中学生アイデアキャンプ」が実施され、中学生目線でのニュースポーツの開発を行い、政策アカデミーで披露されました。2019年度についても、学生を中心としたまちづくり組織「TC Renovation」の創設、「動画作成プログラムを通じて子供の居場所の創出」、「グラウンドサッカー制度」の導入などの政策提案が行われ事業化を進めています。	学生など若い世代の参加により、大人が考える制約を超えた提案が期待できるとともに市に愛着を感じてもらえることができると考えられるため、2019年度に甲西高校生による政策提案である「TC Renovation」(若者を中心としたまちづくり組織の名称)の創設を軸に、市内の小・中学生および高校生が参加できるスキームを確立していきます。			
	(合計)	9,105	6,341	6,150						

地方創生推進交付金活用事業 実施事業内容一覧

【交付金事業名称:滋賀の地域社会・産業を支えるひとつづくりプロジェクト(県連携事業)】

(事業費ベース、単位:千円)

分野	事業名	執行額または予算額			内容			方向性の検討	担当課
		H29執行額	H30執行額	R1見込額	全体概要	年度	年度別実施内容		
人材確保 (県連携事業)	若年者・障がい者合同就職面接会委託	1,998	1,780	1,836	若年者・障がい者等を対象とした市内企業が参加する合同就職面接会の開催	H29	湖南市内で就職・再就職を望む、若年者や障がい者等を対象に、UIJターン就職についての情報交換の場を提供し、多くの若者が地元等で就職できることを目的とし、企業と若者の出会いの場である「合同就職面接会」および就職活動に際し役立つ「合同就職セミナー」を、公共職業安定所など関連機関と連携して開催しました。	新卒者の内定状況等を踏まえ、就職面接会の開催時期を早めることで、大卒予定者の参加者を増やしていきます。また、駅に近い、利便性のよい会場で開催することにより、参加しやすい環境を整えます。	商工観光労政課
						H30	多くの若者が地元で就職できることを目的として、湖南市内での就職・再就職を希望する新卒者・学卒者・若年者・UIJターン者等を対象に、企業との出会いの場としての「合同就職面接会」を、公共職業安定所など関連機関と連携し、甲賀市との共催で開催しました。また、障がい者の方を対象とした合同就職面接会を、甲賀市と共催で開催しました。	広域にわたって周知を行うことで来場者を増やし、市内での就職件数の増加につなげるため、広報活動の強化を行います。	
						R1	湖南市内での就職を希望する若年層や障がい者等を対象に、UIJターン就職についての情報交換の場を提供し、多くの若者が地元で就職することを目的として、企業と若者の出会いの場である「合同ジョブフェア」および就職活動に役立つ「就職セミナー」を、また障がい者の方を対象とした「合同就職面接会」を、公共職業安定所など関係機関と連携し、甲賀市との共催で開催しました。	新卒者の内定状況や社会の動向を踏まえて面接会の開催時期を検討し、また利便性のよい会場を検討するなど、大学卒業予定者の参加者数を増やしていきます。周知方法についてはSNSやアプリを有効活用するなど、広域にわたって周知することで来場者を増やし、市内での就職件数の増加につながる広報活動を検討します。	
	人材育成支援事業委託	598	597	599	職場環境の改善、働き方改革および人材育成等のセミナー実施、市内企業に多い「ものづくり」の魅力を発信	H29	市内企業に多くの人材を確保するため、市内企業に多いものづくり事業の技術の継承とものづくり企業の魅力をPRすることで、市内企業での就労に対する魅力発信と情報提供を行うこととしました。	湖南市企業ガイドのウェブサイトでものづくり事業・ものづくり企業の魅力発信を行うほか、パンフレットを作成し、合同面接会場などでの配布を行います。	
						H30	また、就労に向けた職場環境の改善、人材育成、技術の伝承など、魅力ある企業づくりと人材づくりのためのセミナーを開催しました。	また、市内には福祉施設(高齢者施設・障がい者施設・保育施設)が多くあるため、人材確保と定着就労に向け、福祉業界での仕事のやりがいや、その魅力の発信と情報提供を行います。	
						R1	人材確保と定着就労に向け、市内の福祉関連事業所の協力で福祉業界の仕事のやりがいや魅力をまとめ、ウェブや紙媒体で発信、市内事業所での就労に対する情報提供と魅力発信を行いました。また、働き方のひとつとして「起業・創業」を取り上げ、実際に湖南市内で起業されている方に協力により、創業の魅力ややりがいなどを取材し、情報の発信や提供を行いました。また、魅力ある企業づくりや人材づくりに資するための研修会を開催し、職場環境の改善や人材育成などに関する講演を行いました。	湖南市企業ガイドのウェブサイトでものづくり事業・ものづくり企業の魅力発信を行うほか、パンフレットを作成し、合同面接会場や大学、ハローワークなど関係機関にも広く配布します。	
(合計)	2,596	2,377	2,435						

地方創生推進交付金活用事業 実施事業内容一覧

【交付金事業名称: 専門家との協働による移住・定住促進計画】

(事業費ベース、単位: 千円)

分野	事業名	執行額または予算額			内容	方向性の検討	担当課	
		H30執行額	R1予算額	R2予算額				
移住・定住	ホームページ制作コンサルティング業務委託	3,931	0	0	H30	平成17年以来14年ぶりのホームページリニューアルを行うにあたり、現在のホームページの分析を行い、構造を見直すことで、全ての人がアクセスしやすく、わかりやすいホームページの作成に向け検討を行い、方向性を決定しました。	分析結果をもとに検討課題を整理し、全ての人にとって使いやすいホームページを作成していきます。また、新しい機能を取り入れることにより、時代に合ったホームページをめざします。	秘書広報課
					R1			
					R2			
	市民活動プロジェクト応援ファンド事業	932	960	960	H30	新たな資金獲得手法であるクラウドファンディングを活用し、「市」、「地域プロデューサー」、「サイト運営会社」との協働により、活動主体の掘り起こしからファンドの立ち上げ、プロジェクトのPRに至るまで市民活動プロジェクトに対する支援を行います。 (2018年度ファンド事業) ・湖南市を元気なママのまちにしたい！プロジェクト ・東海道浪漫歩行201830km&15kmウォーク ・じいじの森プロジェクト ・甲西駅前に「最大40人収容の裸足でいたくなる居心地の良いレンタルスペース」はじめます。	ファンドの目標額を達成するためには、プロジェクトに魅力があることはもとより、そのプロジェクトに関わる人を増やすことが重要です。したがって、活動主体にはクラウドファンディングで安易に資金が獲得できないことをしっかりと説明し、場合によっては長期的な視点でプロジェクトの内容を検討することを促し、地域等を巻き込み多くの関係性を構築できるようにサポートしていきます。	地域創生推進課
					R1	引き続き、活動主体の掘り起こしからファンドの立ち上げ、プロジェクトのPRに至るまで市民活動プロジェクトに対する支援を行います。また、地域プロデューサーはクラウドファンディングの立ち上げ支援にとどまらず、効果的なシティプロモーションを行うためのアドバイザーとしての役割も担っています。 (2019年度ファンド事業) ・猿飛佐助キャラクター制作プロジェクト ・「ポケットを子どもたちに！」プロジェクト ・弥平とうがらしマヨおかし制作プロジェクト ・湖南市石部 自然素材とアートで次世代の暮らしを考える宿をつくります！プロジェクト	引き続き、活動主体には資金獲得の難しさと、場合によっては長期的な視点でプロジェクトの内容を検討することを促し安易にファンドの立ち上げを行わないように留意していきます。また、職員が地域プロデューサーのノウハウを吸収できるよう実践していきます。	
	人口推計調査委託	540	100	100	H30	総合戦略の改訂に向け、総合戦略に必要不可欠な人口推計調査をもとに資料の作成を行います。また、現在の人口ビジョンにはない学区別での人口推計データをを作成し、地域の特性を分析することで有効な移住定住施策を検討します。	地域別人口推計データを市民に周知するためには、市が分析データをどのように活用していくか、その結果だけをとりまえて市民に誤解が生じないよう検討する必要があります。	
					R1	前年度に作成した学区別の人口推計調査資料をもとに、地域に情報提供を行うためのわかりやすい資料の作成を行います。	作成資料のHP等の掲載による周知、また、地域まちづくり協議会に対しての説明を早い段階で実施していきます。	
					R2			
	空き家サポートセンターあきやナクス運営事業委託	3,024	4,210	4,210	H30	平成30年6月に湖南市空き家サポートセンターを開設し、相談窓口の一元化、空き家の発生予防及び空き家サポート業務を、また9月には空き家バンクを開設し、管理サポート業務のマッチング件数4件、空き家の売買契約7件の実績を得ました。	湖南市ホームページと連携し、湖南市空き家サポートセンターのホームページから積極的に情報発信していきます。また、人員増加などサポート業務の体制強化し、空き家の発生を予防すると共に、空き家バンクへの新規登録を促進し空き家の利活用を進めていきます。	土木建設課
					R1	湖南市空き家サポートセンターあきやナクスを平成30年6月に開所して以降、空き家等に関する相談の窓口を一元化し、空き家の発生予防および空き家サポート業務を開始、同年9月には空き家バンクの運営をスタートし、平成30年度の実績は、空き家の管理サポート業務に係るマッチング件数が4件、空き家の売買契約が7件となりました。また、令和元年12月末時点におけるマッチング等の状況は、管理サポート業務のマッチング15件、空き家の売買契約が4件と一定の効果を得ており、さらに、特定空き家等の除却工事や利活用改修工事に対する補助に係る制度設計の検討も行っています。	湖南市ホームページと連携し、湖南市空き家サポートセンターのホームページから積極的に情報発信していきます。また、令和元年からサポート業務の体制強化のため、人員を増加しており、引き続き、空き家の発生予防や空き家バンクへの新規登録を促進し空き家の利活用を進めていきます。	
					R2			
	(合計)		8,427	5,270	5,270			

地方創生推進交付金活用事業 実施事業内容一覧

【交付金事業名称:①要因分析を活用した健康寿命延伸プロジェクト、②移住就業支援事業補助金】

(事業費ベース、単位:千円)

分野	事業名	執行額または予算額			内容			方向性の検討	担当課
		R1予算額	R2予算額	R3予算額	全体概要	年度	年度別実施内容		
健康寿命延伸 (県連携事業)	①健康寿命延伸プロジェクト	3,700	7,500	5,400	<p>・2020年東京オリパラ開催の機運に乗じて多様な主体と連携した健康イベントを開催するため、スポーツおよび健康推進に関する事業の方向性等について検討を行うための協議会運営経費</p> <p>・ヘルスケア事業のノウハウを持つ企業等との連携により健康改善のプロセスの見える化</p> <p>・幅広い年代層に注目してもらうため、サブカルチャーを活用したPR</p> <p>・アクティブシニアを中心に、地域まちづくり協議会や大学等と連携し、幅広い知識をもった地域健康リーダーを養成</p> <p>・ニュースポーツ等を活用した新規性を重視した事業を展開する</p>	R1	<p>2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催におけるスポーツへの関心の高まりを契機とし、子どもからお年寄りまで気軽にチャレンジできるニュースポーツや特産品等を活用したニューヘルシーフードを産官学など多様な主体とともに開発し、地域健康リーダー等を通じ普及・定着させることで生活習慣の改善を図ります。また、健康への無関心層(特に若者世代)には、企業と連携し魅力ある講座を開催することやサブカルチャーの活用により無関心を好奇心に変えていく取組を行います。これらの取組を通じて、市民一人ひとりの健康寿命の延伸を図ることで、生涯を通じて輝ける健康なまちづくりを目指します。</p> <p>2019年度は、同日開催のスポーツフェスティバル&健康まつりを盛り上げるために、知名度の高い企業の健康プログラムの実施、地域・福祉・企業と連携したヘルシーフードの開発や中学生が開発したニュースポーツの体験イベントを開催しました。また、VtuberMinamiの新衣装(スポーツ・医者)を制作し、チラシ、スタンプラリーカードに活用し若者が関心を持つ仕掛けづくりを行い、来客数の増加に寄与しました。</p>	<p>知名度のある企業との連携により企画した健康増進プログラム講座では定員の2倍の申込者があり、引き続き多様な主体と連携し若者からお年寄りまで参加できる魅力的なイベントを企画していきます。また、スポーツフェスティバル&健康まつりととどまらず、観光系のイベントなども巻き込み健康寿命を延伸する取組を拡大していきます。また、アクティブシニアを中心に健康に関する知識を幅広い人に伝えてもらえるような仕組みづくりを進めていきます。</p>	地域創生推進課
						R2			
						R3			
移住就業支援 (県連携事業)	②移住就業支援事業補助金	1,000	1,000	1,000	<p>東京23区の在住者または東京圏在住で東京23区への通勤者が滋賀県のマッチングサイトに登録する企業に就職した移住者に対して補助金を交付</p>	R1	<p>東京23区の在住者または東京圏在住で東京23区への通勤者が滋賀県のマッチングサイトに登録する企業に就職した移住者に対して補助金を交付します。東京圏の若者を地方に移住させるための検討材料となる一つの施策であり、本市への移住を考えるきっかけを作ります。</p>	<p>東京圏の若者を地方に移住させるための検討材料となる一つの施策であるため継続して実施していくとともに、滋賀県に対しては県域での差別化を図ることを要望していきます。</p>	地域創生推進課
						R2			
						R3			
(合計)		4,700	6,500	6,400					